

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

6月前半着	1,078.50	(5.25)
6月後半着	1,071.50	(5.25)
7月前半着	1,066.50	(5.25)
7月後半着	1,063.00	(5.25)
8月前半着	1,060.00	(5.25)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価値

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月後半着	+14.50	+8.50
6月前半着	+11.75	+7.50
6月後半着	+8.00	+4.75
7月前半着	+5.75	+3.00

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	JUN
WTI	111.30
BRENT	122.95

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

週明け 25 日のナフサ C&F JAPAN は 1077.75 ドルと小幅続伸、クラックスブレッドは小幅続伸。イースター休暇に伴う連休明けだったことから、閑散とした商状で始まった。アジアのファンダメンタルズが極めてタイトな状況にあるとの認識は強く、期近玉を調達する動きが活発になっている。中東やインドからのスポット販売が見られていたが、いずれも高値で取引されている。成約価格のプレミアム幅は、年初来高値水準で決着しており、タイトな状況が裏付けられる。依然として欧州からの裁定玉の流入は見られず、アジアよりも欧州の方が、期近玉に関しては需給が逼迫している状態との見方もある。一方、ナフサ価格がリーマンショック以来の高値を更新し、クラッカーのマージンはさらに悪化していることから高値警戒感も強まっている。プラッツタイムでは、買い手優位で強めに推移したが上値も重く、上げ幅は小幅にとどまった。本日のアジア市場は買い手優位の展開が続くだろう。ただし、クラッカーのマージンの悪化は深刻化しており、上値の重い展開になることが想定される。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比)	予想値/評価値	速報値/(前日比)
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	891.37	82.49	51,101	(±0)		
11-1Q			50,120		52,100	(±0)
11-Apr	983.41	82.45	56,350	(1)		
11-May	1,044.93	81.80	59,407	(339)		
11-Jun	1,074.36	81.81	61,086	(537)		
11-2Q			58,948		60,900	(300)
11-Jul	1,071.57	81.82	60,937	(593)		
11-Aug	1,067.43	81.84	60,714	(616)		
11-Sep	1,064.30	81.86	60,551	(643)		
11-3Q			60,734		62,700	(700)
11-Oct	1,062.01	81.88	60,437	(655)		
11-Nov	1,060.00	81.91	60,342	(660)		
11-Dec	1,058.00	81.94	60,249	(671)		
11-4Q			60,343		62,300	(700)
12-Jan	1,055.92	81.97	60,155	(677)		
12-Feb	1,053.48	82.01	60,043	(677)		
12-Mar	1,050.54	82.05	59,904	(676)		
12-1Q			60,034		62,000	(700)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2100 円と予想値に変更はない。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は下落することが想定されるうえ、為替通関レートが円高に振れたこともあり、MOF 評価値は値を崩すことが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 300 円安の 6 万 0900 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN 為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	JUN	112.28	(0.01)
	JUL	112.75	(±0.00)
ICE / BRENT	JUN	123.66	(0.33)
	JUL	123.29	(0.34)

Oil Products(セント/gal) (ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	332.29	(1.43)
NYMEX / Heating Oil	MAY	318.20	(1.72)
ICE / Gas OIL	MAY	1,009.25	(4.75)

[マーケットコメント]

週明け 25 日の原油相場は、ロンドン市場、NY 市場ともに総じて下落。ドルが対ユーロで下落したことから買いが先行したが、その後はドルが下げ渋ったことや株価下落を受け利食い売り優勢の展開となり、総じてマイナスサイドで取引を終えた。

米国の財政に対する懸念や金融緩和策を背景に、ドルは対ユーロで投資妙味の低下から下落基調にある。一方、ソブリン債懸念はあるものの、欧州中央銀行(ECB)の利上げ観測から、ユーロは買いが優勢の地合いとなっている。ドル安進行に伴い、コモディティ市場への資金流入が強まったことで、原油相場は買いが先行する場面も見られた。WTI 期近 6 月限は、一時 113.48 ドルまで値を上げ、期近ベースとしては 2 年 7 カ月ぶりの高値を示現した。金相場も最高値を更新し、銀相場も 31 年ぶりの高値を付けた。しかし、その後はドルの下げに一服感が出ると、上昇に対する反動や高値警戒感が利益確定の売りが優勢に。連休明けで高値が薄かったことや、26-27 日に行われる米連邦公開市場委員会(FOMC)後に開かれる米連邦準備理事会(FRB)のバーナンキ議長の記者会見を控えていることもあり、ドル安の流れにあるものの積極的な買いは手控えられた模様。株式市場も調整局面となり小反落したことも、原油相場の重石となった模様。

CFTC 発表によると、19 日時点のファンドのポジションは、WTI は 25 万 4031 枚の買い越しと、前週から買い越し幅を 1 万 0770 枚拡大させた。売り買いともに建玉増加のなか、新規買いを進めている。石油製品は、RBOB が 6 万 2302 枚の買い越しと、前週から買い越し幅を 76 枚縮小。差引に関しては前週とほぼ同水準。原油同様に、新規建玉を優先させている。ヒーティングオイルは、2 万 5711 枚の買い越しと、前週から買い越し幅を 1879 枚縮小。新規ショートが上回った格好。なお、天然ガスは 21 万 2132 枚の売り越しと前週から売り越し幅 1683 枚拡大。

トピックス

「マンスリー・マーケットレビュー = オレフィン」

アジアのオレフィンマーケットは、エチレンは C&F NE ASIA1300 ドル台後半で小確りとした動き。プロピレンは 1500 ドル台後半で上値の重い動きとなっている。

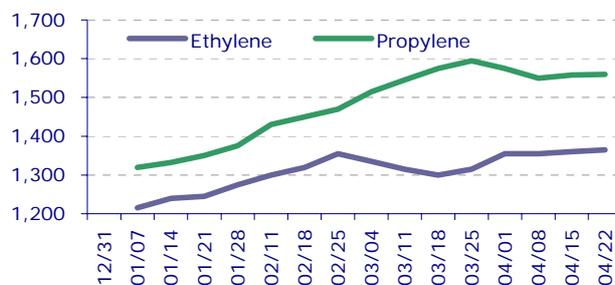
エチレンは小幅に値を上げている。シェルのシンガポールのエチレンプラントの稼働停止に加え、震災により日本のエチレン供給能力の 23% が一時稼働停止し、供給が減少すると見通しから買いが先行、4 月に入り 1350 ドルを上抜いた。その後は川上の原油相場や原料エチレン市況が強含みで推移するも、足元のアジア域内のエチレン需給に引き締め感がないことから、小幅に値位置を切り上げるも上値の重い商状となっている。一部のプラントの稼働停止による供給減少は否めないものの、東南アジアのクラッカーの稼働が高いことで、供給は不足していない。また、需要サイドにおいても、中国の在庫が潤沢であり、かつ誘導品需要が不振であることから需給に逼迫感はない。主要誘導品であるポリエチレン需要はマージン悪化から引き合いの乏しい状況にあり、これまで堅調な需要があったポリエステル需要が落ち込んだことなどが背景にある。特にポリエステル需要については、中国の利上げの影響もあり、先行きの需要低迷を見込んだ先安期待から、一段と引き合いは低下している。川上市況の上昇に支えられ小幅に上昇してはいるが、需給面からの買い材料に乏しく、目先上値重く推移する公算が大きい。対ナフサとのコスト見合いが悪化していることから、採算面から稼働を落とす可能性がある点には注意したい。

一方のプロピレンは、一頃の供給逼迫への懸念が後退したことで、1600 ドルを窺う展開からは一転して売り優勢の展開となっている。震災後に稼働を停止していた根岸や川崎のリファイナリーが再稼働したことで、供給逼迫懸念が和らいだ。また、震災による一時的なスポット購買が一巡したことで、買い気が薄れたことも上値を抑えた。原料市況が強含みで推移していることで下げ渋りの様相となったが、主要誘導品であるポリプロピレンの中国需要が低迷しているうえ、マージンが圧縮されていることでプロピレンに対する引き合いは低下しており、買い気の乏しい状況が続いている。また、定修入りしているプラントがこれから再稼働する予定であり、先行きの供給増加観測から市場のムードはベアな状態へと移行しつつある。

「合成繊維値上げ = ユニチカ」

ユニチカおよびユニチカトレーディングは 22 日、合成繊維について価格改定をすることを明らかにした。値上げ幅は、ポリエステル繊維がプラス 30 円/kg、ナイロン繊維がプラス 50 円/kg で、実施日は 5 月 1 日出荷分より。昨今の原油高ならびに中国をはじめとする新興国の堅調な需要増を背景に、合繊原料価格の騰勢に歯止めが効かず高値圏で推移しており、今後もこの傾向が続くことが予想される。様々な合理化策を実施するも、自助努力によるコスト削減のおよぼざるところとなり、事業収益の悪化にブレーキがかからない状況であるため、価格改定を実施する。

C&F NE ASIA(ドル/MT)



Daily Market Report

「塩化ビニル管および関連製品など値上げへ = 積水化学工業」

積水化学工業は 22 日、塩化ビニル管および関連製品などの価格について、値上げすることを明らかにした。改定幅は、塩化ビニル管全般がプラス 20%、給水継手・マス・塩化ビニル管接着剤がプラス 15%、排水継手・保温材がプラス 20%、電力・通信ケーブル保護管関連製品がプラス 20%、ポリエチレン管および継手がプラス 15%で、実施日は 5 月 1 日出荷分より。国際的な原油・ナフサ価格の上昇を受けて、管材および継手などの材料である塩ビ樹脂やポリエチレン樹脂価格が昨秋より上昇が続いており、安定供給の観点から主原料である樹脂の値上げを受け入れざるを得ない状況にある。コスト削減や効率化を推進してきたが、自助努力の限界に達しており、価格改定に踏み切らざるを得ないと判断した。

「塩素化 PP 生産設備増設 = 東洋紡」

東洋紡績は 21 日、塩素化ポリプロピレン生産設備の増設を行い、生産能力を現在の 1.5 倍に拡大することを明らかにした。約 10 億円を投じて、同社高砂工場内に新設備は設置される。今年 9 月の完成を目指し、10 月の生産開始を予定している。同社の塩素化 PP 樹脂は、主に自動車バンパーの下塗り塗料やインキのバインダーとして使用される。近年は中国などアジアの新興国を中心に、自動車生産台数が増加していることから、同製品に対する需要も拡大している。また、食品包装用フィルムのインキにも使用され、世界的に環境規制が高まるなか、従来主流となっていたトルエンなどの有機溶剤を使用しないノントルエンタイプの同製品の需要も伸びている。

「ブラジル市場へ進出 = 旭硝子」

旭硝子は、高成長が見込まれるブラジルの建築用ガラスおよび自動車用ガラス市場に参入する。サンパウロ州に新社 AGC ガラス・ブラジルを設立し、約 400 億円を投じて建築用ガラスおよび自動車用ガラス素板を生産するフロート窯、検知用高付加価値品生産設備であるミラーおよびコーティング設備、自動車用の合わせガラスおよび強化ガラス生産設備を建設する。フロートガラスの生産能力は 22 万トン/年、自動車用ガラスは 50 万台分/年。2013 年以降順次稼働を開始する予定。

「世界初のエチレンプラントでの LNG 冷熱を利用した大規模省エネプロセスを導入 = 三井化学」

三井化学および 100% 子会社大阪石油化学 (OPC) は大阪ガスと共同で、エチレンプラントにおいて世界で初めて大規模に LNG 冷熱を利用した省エネルギー化プロセス導入に成功した。三井化学大阪工場内にある OPC エチレンプラントでは、ナフサ等を熱分解してエチレン、プロピレンなどの基礎原料を製造しており、その製造工程の一部において、各成分を分離精製するために大型冷凍機によって製造した大量の冷熱を使用していた。一方、近隣の大阪ガス泉北製造所第一工場では、従来から約 80% の LNG 冷熱を液化窒素・ドライアイスの製造などに利用しており、さらに LNG 冷熱を有効に活用する方法を検討していた。3 社でさらなる LNG 冷熱の有効活用を検討してきた結果、大阪ガス泉北第一よりマイナス 160 の LNG を OPC エチレンプラントに受け入れ、LNG が保有する冷熱を効率的に回収利用するプロセスを開発。2010 年 10 月から本プロセスの運用を開始し、この度実運用下での CO2 削減効果を確認した。この省エネプロセス導入により、OPC エチレンプラントから排出される CO2 は約 3.8 万トン/年削減されることになる。

「2 月のメラミン樹脂輸入単価、安値トップ 10」

2011 年 2 月の熱硬化性樹脂のメラミン樹脂輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比 79 トン増の 278 トン、輸入価額は 7711 万円となった。原産地別輸入数量の割合は、ドイツが 36%、タイが 28%、台湾が 18%、中国が 12%、イタリアが 4%となっている。価額を数量で割り返した 2 月の輸入単価 (CIF JAPAN) の計算値は、前月比 16 円高の 278 円/kg。貿易統計上のメラミン樹脂は、用途での区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用性の高いグレードの輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ 10 は、右表のとおり。なお、2 月の通関レートは、1 ドル = 81.76 ~ 83.42 円、日数による加重平均値は、1 ドル = 82.33 円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
名古屋	台湾	16,000	2,749	172	2,060 - 2,101
横浜	ドイツ	60,000	11,100	185	2,218 - 2,263
神戸	ドイツ	20,000	3,700	185	2,218 - 2,263
東京	中国	33,600	6,568	195	2,343 - 2,391
東京	台湾	32,000	6,880	215	2,577 - 2,630
大阪	台湾	1,000	277	277	3,321 - 3,388
東京	イタリア	11,000	3,417	311	3,724 - 3,799
名古屋	タイ	15,400	4,843	314	3,770 - 3,846
名古屋	ドイツ	20,000	6,485	324	3,887 - 3,966
東京	タイ	12,800	4,216	329	3,948 - 4,029

(出所:財務省)